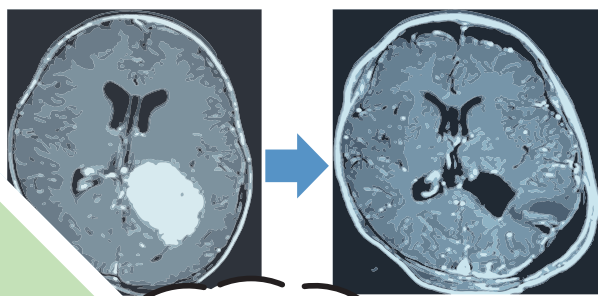


JNEF 2022

第35回 日本脳神経外科同時通訳夏季研修会
The 35th Simultaneous Interpreters Group in Neurosurgery (SIGNS)



我々の結果より、
みょう絡叢への
到達は…

From our results,
how to reach
choroid plexus…

2022年
7.22(金)・23(土)

会場 つくば国際会議場

会長 柴田 靖

筑波大学付属病院 水戸地域医療教育センター 脳神経外科 教授

事務局 筑波大学医学医療系脳神経外科
〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL:029-853-3220

連絡事務局 株式会社コンベックス内
〒106-0041 東京都港区麻布台1-11-9 BPRプレイス神谷町
TEL:03-3505-1608 FAX:03-3505-3366
Email:jnef2022@convex.co.jp

<http://jnef2022.umin.jp/>

同時通訳夏季研修会のご案内

1. 参会受付

つくば国際会議場2階「ホワイエ」にて、7月22日（金）・23日（土）共に8:20より、受付を開始します。参会者カードに必要事項をご記入のうえ、参会費・年会費（2,000円）をお支払いください。

参加費区分 ※別途年会費（2,000円）をお支払いください。

SIGNS 研修者 5,000円

発表、研修を伴わない参加 JNEF/SIGNS 8,000円

SIGNSのみ 3,000円

- 受付は現金のみです。クレジットカードやデビットカードはお使いいただけません。おつりの出ないようご準備くださいますようお願いいたします。

2. Trainee ならびに trainer の方々へ

次項「進行について」をご熟読ください。

3. Ken's Award と会長賞

日→英同時通訳の評価点で最高点の trainee には Ken's Award が、また英→日同時通訳の最高点の trainee には会長賞が贈られます。

4. 同時通訳研修会演者の皆様へ

- スクリーン1面、ご連絡した発表時間にてご準備ください。2回発表してもらいます。1回目はゆっくり目に、2回目は通常でよいです。内容に関する質疑応答も通常通り、日本語で受けてください。
- データはUSBフラッシュメモリまたはCD-Rに保存してお持ちください。用意しているPCは、Windows 10のPowerPoint 2010、2013、2016です。
- できるだけOS標準フォント（MSゴシック、Arialなど）をご使用ください。PowerPointの「発表者ツール」は使用できません。
- Macで発表される場合や、発表内で動画をご使用の場合には、ご自身のPCをお持ちください。通常の学会同様、モニターはアナログVGA（ミニD-sub 15ピン；JNEFプログラムをご参照ください）にのみ対応しています。必要に応じて変換ケーブル／コネクタをご準備ください。併せて、必ず電源アダプターをご持参ください。
- プレゼンテーション内に他のデータ（静止画、動画、グラフ等）をリンクさせている場合には、リンク先の元データも同一フォルダにコピー・保存し、作成したPCとは別のPC（Windows 10）にて事前に動作確認をお済ませくださるようお願いいたします。
- データやメディアは、最新のウイルス駆除ソフトでチェックしてからお持ちください。お預かりしたデータは、学会終了後、責任を持って消去いたします。

5. その他

- 服装は例年通り、ノーネクタイのビジネスカジュアルでお越しください。

歴代 Ken's Award 受賞者

	Winner (敬称略)	(受賞時所属)
第13回 (1999)	松村 明	筑波大学
第14回 (2000)	太組 一朗	日本医科大学
第15回 (2001)	原 淑恵	神戸赤十字病院
第16回 (2002)	キッティボン スイーワッタナクン	東海大学
第17回 (2003)	安田 宗義	筑波大学
第18回 (2004)	野村素弘	横浜栄共済病院
第19回 (2005)	柴田 靖	筑波大学
第20回 (2006)	荒木 尚	日本医科大学
第21回 (2007)	下地 一彰	順天堂大学附属練馬病院
第22回 (2008)	大宅 宗一	東京大学
第23回 (2009)	遠藤 俊毅	仙台医療センター
第24回 (2010)	中村 聡	国際医療福祉大学
第25回 (2011)	川堀 真人	北海道大学
第26回 (2012)	斉藤 敦志	青森県立中央病院
第27回 (2013)	田中 將太	東京大学
第28回 (2014)	綿谷 崇史	静岡県立こども病院
第29回 (2015)	山下 麻美	鹿児島大学
第30回 (2016)	花 大洵	埼玉医科大学
第31回 (2017)	チャリセル シュン	名古屋大学
第32回 (2018)	松橋 阿子	国立成育医療研究センター
第33回 (2019)	末永 潤	横浜市立大学
第34回 (2021)	木村 英仁	神戸大学

進行について

通訳ブース別のグループ分けは以下の通りです。ご自身がどのグループの trainee / trainer なのかをご確認ください。何とぞよろしくご協力ください。

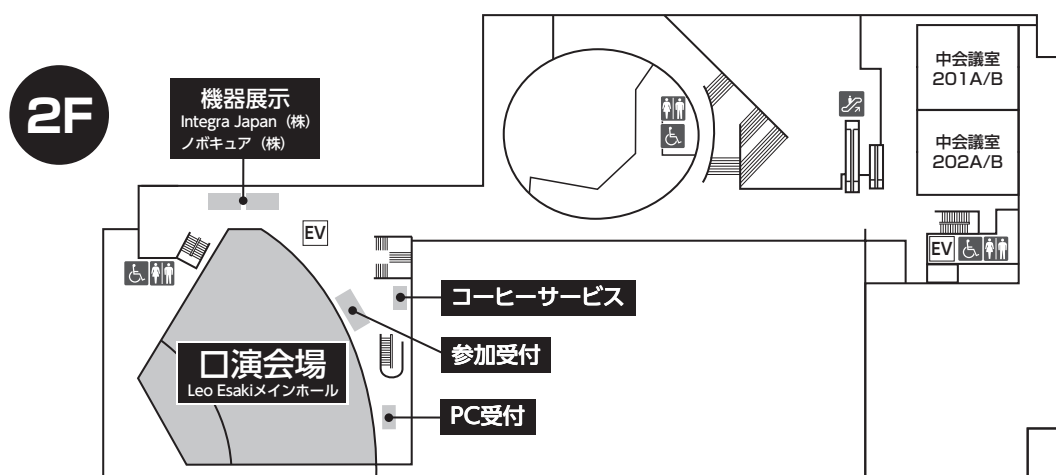
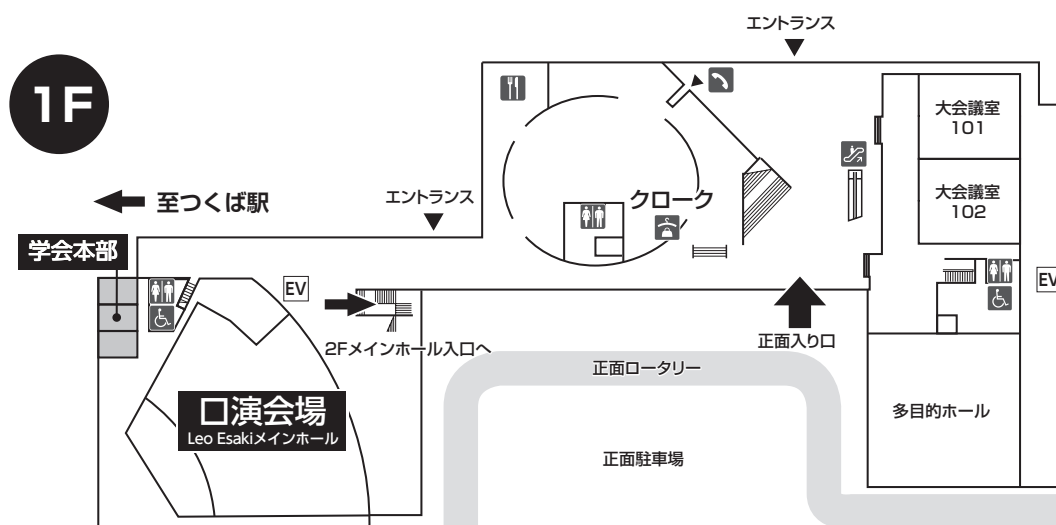
	氏名	所属	JNEF への 参加	参加 回数	trainers
A	1 山川 曜	公立八女総合病院 脳神経外科	無	1	Junko Mtatsuyama George Tokugawa Jun Suenaga
	2 金 永珠	淀川キリスト教病院	無	1	
	3 園田 真樹	横浜市立大学附属病院 救急科 (脳神経外科)	有	1	
	4 萩野 陽菜乃	国際医療福祉大学医学部医学科 5年	無	1	
B	5 銭 博恵	東京女子医科大学脳神経外科	有	1	Muneyoshi Yasuda Ryu Kurokawa Takahiro Miyahara
	6 小島 以織	千葉大学脳神経外科	有	2	
	7 朴 穂貞	横浜市立大学 脳神経外科	有	1	
	8 辛 直輝	国際医療福祉大学医学部医学科 5年	無	1	
C	9 松本 佳純	順天堂大学医学部附属練馬病院 脳神経外科	有	1	Takashi Kon Yusuke Kinoshita Takafumi Wataya
	10 後藤 正幸	筑波大学人間総合科学研究科疾患制御医学専攻	無	2	
	11 三木俊一郎	筑波メディカルセンター	有	2	

JNEF 演題に対する通訳の割り当て表

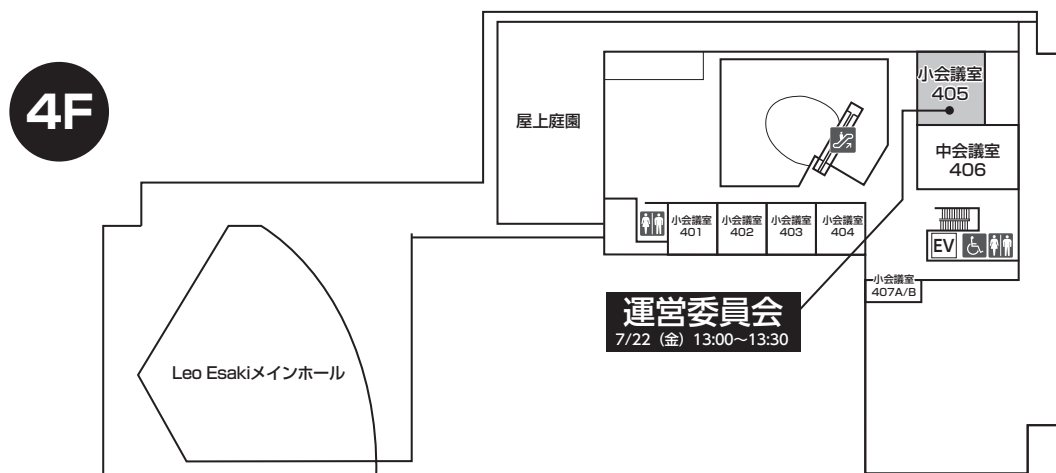
セッション名	Moderator	演題番号	Speaker	Discussant	trainee 氏名
教育講演 I	Yasushi Shibata		Bryan J. Mathis		4 萩野陽菜乃
					8 辛 直輝
					11 三木俊一郎
Session I Tumor research	Masaaki Taniguchi	a-1	Taisuke Akimoto	Takeshi Kondo	1 山川 曜
		a-2	Narushi Sugii	Takashi Kon	2 金 永珠
		a-3	Shunichiro Miki	Takamitsu Fujimaki	3 園田 真樹
Session II Vascular research	Katsumi Sakata	b-1	Kasumi Matsumoto	Yoshie Hara	7 朴 穂貞 (Sujong Pak)
		b-2	Fukutaro Ohgaki	Yusuke Kinoshita	6 小島 以織
		b-3	Satoshi Miyamoto	George Tokugawa	5 銭 博恵 (Bohui Qian)
Session III Vascular case report	George Tokugawa, Yoshie Hara	c-1	Sujong Pak	Isao Date	9 松本 佳純
		c-2	Iori Kojima	Jun Suenaga	10 後藤 正幸
		c-3	Yu Iida	Soichi Oya	11 三木俊一郎
		c-4	Masatoshi Kasuya	Yusuke Kinoshita	1 山川 曜
Session IV Tumor case report	Yoshihiro Natori	d-1	Marina Takahashi	Junko Mtatsuyama	2 金 永珠
		d-2	Kiwamu Motoyoshi	Takamitsu Fujimaki	3 園田 真樹
		d-3	Noriyuki Watanabe	Takeshi Kondo	5 銭 博恵 (Bohui Qian)
Session V Function and spine	Muneyoshi Yasuda, Ichiro Takumi	e-1	Ryoko Niwa	Takafumi Wataya	6 小島 以織
		e-2	Masaki Sonoda	Masahiro Ogino	7 朴 穂貞 (Sujong Pak)
		e-3	Bohui Qian	Yoshinori Higuchi	9 松本 佳純
		e-4	Masaki Ujihara	Takaomi Taira	10 後藤 正幸

JNEF 通訳指導 trainers : Ryoko Niwa, Yusuke Kinoshita, Takafumi Wataya, Jun Suenaga, Takahiro Miyahara

会場内案内図



※メインホール入口は2Fです。



初日 7月22日（金）

- 初日の朝、Bryan Mathis 先生による教育講演でスタートです。
- 英日通訳はこの教育講演から始まります。通訳担当の際には、ご自身の番号と名前の書かれたカード（当日お渡しします）を所定の場所に置いてください。
- JNEF では、英→日の同時通訳を行います。ぶっつけ本番になりますが、ご自身の声で演者の声がかき消されないようヘッドフォンの音量を調節しながら挑戦してみてください。わからない単語はそのまま英語でスルー、気を取りなおして次に進みましょう。
- JNEF の演題は皆さんのトレーニング材料でもあります。ご発表に際しては、入念なリハーサルを済ませられたのちにご登壇ください。
- ランチョンセミナーでは、いったんブースからフロアにお戻りください。

2日目 7月23日（土）

- 日→英の同時通訳トレーニングは、2日目に行います。
- 植村研一先生による教育講演でスタート。これは主として日→英の同時通訳についてのご講演です。初めてご参加の方は最前列に、2回目の方はその後ろにご着席ください。いろいろと厳しいコメントが出てくることも予想されますが、どうかめげないで、ついてきてください。
- 私どもの同僚が手持ちの演題を、まずはゆっくり発表します。ブース内でそれぞれの trainers と一緒にご自身の通訳を review してください。その後フロアからもコメントをいただき、ひと通りの指導が済んだら次の trainee と交代。これをくり返します。
- 質疑応答や座長からのコメントも、日英の通訳を継続してください。

タイムテーブル

7月22日 (金)
9:00~9:05 開会、オリエンテーション
9:05~9:35 教育講演 I 演者：Bryan J. Mathis 座長：柴田 靖
9:35~9:40 JNEF opening remarks
9:40~10:40 Session I Tumor research 座長：谷口 理章
10:40~10:50 Coffee break
10:50~11:50 Session II Vascular research 座長：坂田 勝巳
12:00~13:00 ランチョンセミナー1 演者：永田 栄一郎 座長：柴田 靖 共催：第一三共株式会社
13:00~13:30 運営委員会／休憩
13:30~14:40 Session III Vascular case report 座長：原 淑恵、徳川 城治
14:40~15:40 Session IV Tumor case report 座長：名取 良弘
15:40~16:00 Coffee break 2
16:00~17:10 Session V Function and spine 座長：安田 宗義、太組 一朗
17:10~18:10 教育講演 II 演者：岡崎 正男 座長：柴田 靖
18:10~18:30 表彰
18:30 初日閉会

7月23日 (土)
9:00~9:40 教育講演 III 演者：植村 研一 座長：柴田 靖
9:40~9:50 日英同時通訳研修オリエンテーション
9:50~11:00 日英同時通訳研修 I 症例報告 座長：下地 一彰
11:00~11:50 日英同時通訳研修 II 研究 座長：樋口 佳則
12:00~13:00 ランチョンセミナー2 演者：柴田 護 座長：松村 明 共催：大塚製薬株式会社
13:00~14:00 次期会長挨拶 表彰式 団長総括
14:00 閉会

プログラム

7月22日（金）

（別冊のJNEFプログラム・抄録集をご参照ください）

7月23日（土）

9:00-9:40 教育講演 III 演者：植村 研一
座長：柴田 靖

9:40-9:50 日英同時通訳研修オリエンテーション

9:50-11:00 日英同時通訳研修 I 症例報告 座長：下地 一彰

- i-1 注意すべき両側慢性硬膜下血腫：脳脊髄液漏出症した一例
筑波大学附属病院 脳神経外科 飛田野 篤
- i-2 キアリ奇形I型に対する合成吸収性人工硬膜を用いた大後頭孔減圧術に伴う周術期合併症
東京都立小児総合医療センター 脳神経外科 渡辺 ちひろ
- i-3 コロナ感染後のメディカルチェックで見つかった胸椎腫瘍の一例
筑波記念病院 脳神経外科 / 水戸協同病院 脳神経外科 相山 仁

11:00-11:50 日英同時通訳研修 II 研究 座長：樋口 佳則

- ii-1 瞳孔測定計を用いた外傷性脳損傷患者の瞳孔所見と重症度との関係性の検討
筑波大学 医学医療系 脳神経外科 中尾 隼三
- ii-1 (代理) マウス頭部外傷モデルにおける新規の抗酸化ナノメディシンを用いた脳保護効果
筑波大学医学医療系 脳神経外科 / 筑波大学医学医療系 救急・集中治療科 高橋 利英
- ii-2 鍼を用いた Neuromodulation の機序に関する検討
Pain matrix の Functional Connectivity の変化
筑波技術大学 保健科学部 石山 すみれ

12:00-13:00 ランチョンセミナー2

座長：松村 明

片頭痛診療のパラダイムシフト

柴田 護（東京歯科大学市川総合病院 神経内科）

共催：大塚製薬株式会社

13:00-14:00 次期会長挨拶

13:00-14:00 表彰式・団長総括

14:00 閉会

第35回 日本脳神経外科同時通訳

夏季研修会 2022

抄録

i-1 注意すべき両側慢性硬膜下血腫：脳脊髄液漏出症した一例

飛田野 篤¹、原 拓真²、小野 諒平²、原 慶²、古西 崇寛³、椎貝 真成³、
上村 和也²

筑波大学附属病院 脳神経外科¹、筑波メディカルセンター病院 脳神経外科²、
筑波メディカルセンター病院 放射線科³

【目的】

慢性硬膜下血腫 (CSDH) は若手脳外科医が治療を担当する一般的な脳外科疾患である。しかし、脳脊髄液漏出症 (Cerebrospinal Fluid Hypovolemia : CFH) に起因する両側 CSDH の場合は穿頭血腫術を第一に選択することで転機不良となり得る。当施設にて経験した注意すべき CSDH 症例について報告する。

【症例】

症例は57歳女性。

X-7日交通事故歴がある。X日、頭痛を主訴に近医受診し、CTで薄い両側慢性硬膜下血腫を指摘されその後当院紹介となった。外来フォロー方針となっていたが、X+13日頭痛増悪し穿頭血腫ドレナージも考慮され入院となった。その後CT所見よりCFHに伴う病態の可能性が示唆され、ドレナージ手術予定を中止し保存的加療が開始された。

MRIで胸椎～腰椎の硬膜外腔に液体貯留を認めた。CTにてC5/6の骨棘があるレベル近傍が漏出点と考察された。入院後も症状改善なく、患者本人の強い希望によりX+20日外科的髄液漏閉鎖+前方固定術を行った。翌日には症状は著明に改善し、X+28退院となった。フォローCTでCSDHも改善した。

【考察】

両側CSDHを伴うCFHの症例を経験した。両側CFHの正確な原因診断は治療方針決定には必須である。画像所見や症状などの観点から文献的考察を加えて報告する。

i-2 キアリ奇形 I 型に対する合成吸収性人工硬膜を用いた大後頭孔減圧術に伴う周術期合併症

Perioperative complications of Foramen Magnum Decompression for Chiari I Malformation using artificial dura

渡辺 ちひろ、黒羽 真砂恵、山下 麻美、河野 まや、井原 哲

東京都立小児総合医療センター 脳神経外科

【背景】

キアリ奇形 I 型に対する治療としては、通常大後頭孔減圧術（FMD）が主体であり、硬膜形成を行う際には筋膜や非吸収性人工硬膜が使用されてきた。近年合成吸収性人工硬膜の使用が本邦でも増加しており、2017年4月本邦で初めて、無縫合合成吸収性人工硬膜であるデュラウエーブが発売された。硬膜を縫合せずに閉鎖でき、生体内で加水分解され最終的には硬膜様組織に置換されるという特徴を持つ。今回当施設におけるデュラウエーブを用いたキアリ奇形 I 型に対する FMD 施行の使用経験について報告する。

【対象 / 方法】

2018年1月から2021年9月の間に当施設でキアリ奇形に対して FMD を施行した症例の中で、デュラウエーブを使用した症例を対象とし、周術期合併症について検討した。

【結果】

6例の症例で FMD として大後頭孔の開放、C1 椎弓切除を行い、デュラウエーブを使用して硬膜形成を行った。そのうち2例において術後、後頭蓋窩に硬膜下水腫を認め、それに伴う急性閉塞性水頭症を呈した。2例ともに術後頭痛を認め、精査の頭部 CT にて指摘された。1例は第3脳室底開窓術及び脳室ドレナージ術を施行し、1例はマンニトール、アセタゾラミド投与による保存的加療を行った。いずれの例でも硬膜下水腫は減少し、水頭症改善を認め、転帰は良好であった。また1例で急性硬膜外血腫を認めたが、保存的加療にて軽快を得られた。

【考察】

少数の検討ではあるが、6例中3例に周術期合併症を認めた。合成吸収性人工硬膜との因果関係は不明であるが、自施設で筋膜を用いて硬膜形成を行った7例では同様の合併症は経験しておらず、注意を要するものと考えられた。

キーワード：Foramen Magnum Decompression , Chiari I Malformation , artificial dura

i-3 コロナ感染後のメディカルチェックで見つかった胸髄腫瘍の一例

相山 仁^{1,2}、井口 けさ人³、竹内 陽介⁴、柴田 靖²

筑波記念病院 脳神経外科¹、水戸協同病院 脳神経外科²、呼吸器外科³、整形外科⁴

【はじめに】胸髄腫瘍は一般的に何らかの症状が出現してから見つかることが多い。今回我々はコロナ感染後のメディカルチェックで見つかった胸髄腫瘍の1例経験した。その手術治療適応について考察を含めて報告する。

【症例】40歳男性。2021年8月下旬にコロナに感染し発症。解熱し隔離解除となった9月上旬に当院の発熱外来でメディカルチェックの胸部レントゲンで左心陰影に重なり、4.5cm 円形の腫瘍影を指摘された。解熱はしているが、咳嗽が持続することによって当院内科受診となり、胸部造影 CT で後縦隔腫瘍を指摘され、当科紹介。造影 MRI で Th 8/9 の左神経孔を侵食し充満し、左後縦隔に突出するダンベル型の49×32×36mm の境界明瞭な腫瘍を認めた。呼吸器外科と治療方針を相談し、ご本人の治療希望もあり、手術での摘出術施行となった。胸椎椎弓を開窓し、神経孔および硬膜を展開し、後根由来であること、硬膜内への伸展がないこと、前根は温存し、神経孔部分の腫瘍を摘出し、後縦隔部分を呼吸器外科が内視鏡下で全摘出した。術後、新規の神経学的脱落症状なく術後1週間で自宅退院となった。

【考察】コロナ感染が流行する中、感染後のメディカルチェックで偶発的に胸髄腫瘍を認めた。当科としては経過観察の方針であったが、胸部外科としては硬膜内に浸潤する前の方が安全に手術を行えるとの方針で最終決定はご本人の希望に沿った。症状のない胸髄腫瘍に対する手術適応については検討が必要である。

【結語】コロナ感染後のメディカルチェックで偶発的に見つかった胸髄腫瘍に対して手術治療を行った症例を経験し、報告した。

ii-1 瞳孔測定計を用いた外傷性脳損傷患者の瞳孔所見と重症度との関係性の検討

中尾 隼三¹、丸島 愛樹^{1,3}、高橋 利英^{1,2}、室井 愛¹、井上 貴昭²、松丸 祐司³、
石川 栄一¹、

筑波大学 医学医療系 脳神経外科¹、筑波大学附属病院 救急・集中治療科²、
筑波大学附属病院 脳卒中科³

【はじめに】 外傷性脳損傷患者の瞳孔所見は重要な身体所見の一つであるが、測定結果は検者の主観によるところが多く、正確な測定値が得られないこともある。一方で、近年は定量的瞳孔測定計 NPi-200(NeurOptics 社)を用いて瞳孔径、瞳孔収縮速度、瞳孔収縮率などを定量的に評価することが可能である。我々は同機器を用いて外傷性脳損傷患者の正確な瞳孔径を評価し、その重症度との関連を検討した。

【対象・方法】

2019年8月から2020年3月に当院 ICU、HCU に緊急入院した外傷性脳損傷患者のうち、入室後24時間以内に瞳孔測定計を用い瞳孔測定を実施した18症例を対象とし、入院時8以下を重症群、GCS9以上を非重症群とした。なお、左右差がある病変では病変測の値を、左右差がない病変は瞳孔径が大きい側の値を測定結果とした。

【結果】

重症群8例、非重症群10例であった。両群で男女差(重症群6:2、非重症群8:2)に差はないが、平均年齢(重症群77.7歳、非重症群44.9歳)では有意差を認めた。両群で瞳孔異常患者の割合(2.0mm未満、または5.0mm以上)に有意差は認めなかったが、瞳孔収縮率は非重症群で有意に迅速であり(重症群9.8%、非重症群28.6%、 $p < 0.001$)、平均瞳孔収縮速度でも同様に有意差を認めた(重症群0.6mm/sec.、非重症群2.4mm/sec.、 $p < 0.001$)。

【考察】

本研究では入院時の重症度は瞳孔異常の有無よりも瞳孔収縮率、瞳孔収縮速度が相関した。外傷性脳損傷の重症度を評価する場合、瞳孔径のみならず、その収縮率を評価することも重要なモニタリングであることが分かる。神経集中治療領域ではGCS、年齢、画像所見などに瞳孔径を交えた予後予測法が多く検討されている。瞳孔測定計を用いて正確な瞳孔所見を交えての重症度評価は、今後の脳損傷治療のさらなる発展につながる可能性がある。

ii-1 マウス頭部外傷モデルにおける新規の抗酸化ナノメディシンを用いた脳保護効果 (代理)

高橋 利英^{1,2}、丸島 愛樹^{1,2}、長崎 幸夫³、室井 愛¹、Sandra Puentes⁴、Arnela Mujagic¹、石川 栄一¹

筑波大学医学医療系 脳神経外科¹、筑波大学医学医療系 救急・集中治療科²、筑波大学 数理物質科学研究科³、筑波大学大学院 システム情報系⁴

【はじめに】 頭部外傷は死亡および身体的・精神的後遺症が残存する確率が高く、社会に及ぼす損失が大きい。しかし頭部外傷のメカニズムには解明できていない点も多く、確立された治療法も少ない。我々は活性酸素消去剤である TEMPO をミセル化した新規化合物 RNP (Radical containing nanoparticle) をマウス頭部外傷モデルに投与し、頭部外傷における脳神経障害改善効果を検証した。

【方法】 マウス頭部外傷モデルを作成し、RNP 投与群、TEMPO 投与群、ミセル (TEMPO を含まない) 投与群、PBS 投与群に分けて外傷直後に薬剤を静脈注射した。外傷 1 日後、3 日後、7 日後に神経評価し、sacrifice して脳を摘出し以下を検証した。(1) 適切な投与濃度・回数検証：濃度を 30、3、0.3、0.03mg/kg に振り分け、神経症状の程度と脳挫傷体積を比較した。(2)RNP の脳代謝への効用の検証：蛍光免疫染色によりアストロサイトや神経細胞、ミクログリアを観察し検証した。(3) フリーラジカルの測定：ESR(Electron spin resonance) にてスーパーオキシド等のフリーラジカルを測定し、その消去活性効果を測定・評価した。

【結果と考察】 (1)3mg/kg が他より神経症状改善効果が得られたが、脳挫傷体積には明らかな差を認めなかった。受傷 1 日後、3 日後、5 日後にそれぞれ同量の腹腔内投与を追加すると脳挫傷体積が縮小したため、適切な投与濃度・回数と考えられた。(2)RNP 投与群にて外傷部でアストロサイトやミクログリアの動員が顕著となり、神経細胞の脱落は減少した。(3)RNP 投与群ではスーパーオキシド等の一部のフリーラジカルに対して、消去活性効果が大きかった。

【結語】 RNP 投与による脳神経障害改善効果が得られ、頭部外傷後の二次的脳損傷を抑制できる可能性が示唆された。

ii-2 鍼を用いた Neuromodulation の機序に関する検討 Pain matrix の Functional Connectivity の変化

石山 すみれ¹、柴田 靖^{2,3}、鮎澤 聡¹、松村 明⁴

筑波技術大学 保健科学部¹、

筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター / 水戸協同病院 / 脳神経外科 / 頭痛外来²、

筑波大学医学医療系脳神経外科³、茨城県立医療大学⁴

【背景】 片頭痛など一次性頭痛の治療は薬物治療が第一選択だが、治療に難渋する例も少なくない。海外では難治例に対して Neuromodulation も試みられているが、未だ国内では未認可の治療である。そこで我々は鍼を用いた Neuromodulation を行い、臨床効果に加えて、Functional Connectivity (FC) について解析を行った。

【対象と方法】 症例は前兆のない反復性片頭痛11名、慢性片頭痛6名。鍼治療は後頭部 C2 領域に対し、長さ50mm 直径0.18mm の鍼を皮下に対し15~20mm 程度刺入し、50Hz15分の低周波鍼通電療法を行った。治療頻度は週1回3ヶ月間とし、治療前後に resting state functional MRI を撮像した。臨床評価は、Numerical rating scale (NRS)、Headache Impact Test (HIT-6)、Self-rating depression scale (SDS) を用いた。画像解析は CONN を使用し、関心領域は左右中心後回、島、帯状回前部・後部、扁桃核、視床、視床下部、脳幹とした。

【結果】 前兆のない反復性片頭痛では NRS は 6.9 ± 1.9 から 4.2 ± 2.6 へ有意な改善を認めた。SDS も 45.6 ± 9.6 から 42.2 ± 8.8 へ有意な変化を認めたが HIT-6 は有意差はなかった。また慢性片頭痛では臨床評価に有意な改善はなかった。画像解析は、前兆のない反復性片頭痛では治療前後で右視床下部—左島の FC で有意な低下を認めた。慢性片頭痛では有意な変化のある FC はなかった。

【結語】 鍼による Neuromodulation では疼痛関連領域の FC を変化させることにより疼痛が改善する可能性が示唆された。

Key word ; Peripheral nerve field stimulation, acupuncture, migraine, pain matrix

日本脳神経外科同時通訳団

名誉顧問	植村 研一
顧問	阿部 俊昭 大井 静雄 小林 茂昭 中川 洋
団 長	大宅 宗一
副 団 長	伊藤 昌徳 西澤 茂
幹 事	赤井 卓也 池崎 清信 近藤 威 佐伯 直勝 平 孝臣 名取 良弘 藤巻 高光 細田 浩道 本郷 一博 三原 千恵

(敬称略 / 氏名50音順)

次期開催のご案内

第37回日本脳神経外科国際学会フォーラム
第36回日本脳神経外科同時通訳夏季研修会

会長：近 貴志

(荏原病院脳神経外科)

会期：2023年7月28日(金)・29日(土)

会場：パシフィコ横浜 会議センター

本学会に関するお問い合わせ

【事務局】

筑波大学医学医療系脳神経外科
〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL: 029-853-3220

【連絡事務局】

株式会社コンベックス内
〒106-0041 東京都港区麻布台1-11-9 BPR プレイス神谷町
TEL: 03-3505-1608 FAX: 03-3505-3366 Email: jnef2022@convex.co.jp